

キッズパラダイス

令和 7年 4月16日発行

宮代児童センター

綾部市 宮代町 土代 2-3

電話 42-9845

新緑の木々のその枝先から、吹き出すように若葉が広がり、枯れ枝を覆っていきます。若葉は、薄くて柔らかくみずみずしさを感じ、初夏のきざしを撒き散らすように若葉を揺らし、風の吹くこの頃が一年の中でも最もさわやかな季節となります。

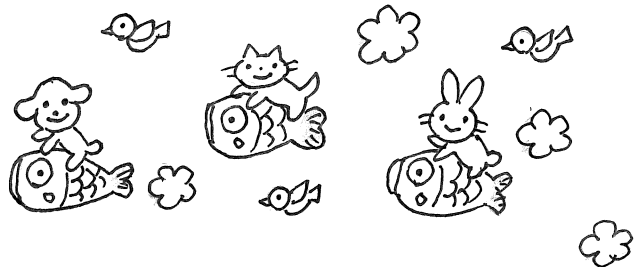
新しい出会いを経験し、気持ちは高揚感にあふれますが、明るすぎるくらいの光の中で、季節の変化に乗り遅れた心は「五月病」にかかるかも知れません。新しいものたちは、いつも眩しく真っさらで、希望の光に満ちていますが、それをゆっくりと受け入れて、自分の歩むべき道をしっかり踏みしめたいです。

そんな中でこどもたちは、大きな歓声をあげ喜びいっぱいの笑顔です。それが日常の風景としてあることを喜びとしたいと思います。

「のびのびひろば」5月の予定

- ・5月15日(木) …トンネルつなぎ
- ・5月22日(木) …さつま芋植え付け
- ・5月29日(木) …遊具であそぼう

※ 都合により変更になる場合があります。



こいのぼり

こいのぼりのルーツは、男の子が生まれるとのぼりを立てて祝う武家の風習から来ています。その後、こいのぼりが考案されて庶民にも広がりしました。

こいは、濁った池や沼でも生きられる強い魚。その生命力とこどもの成長をかけています。五色の吹き流しは魔除けの意味をもっています。

しょうぶ湯

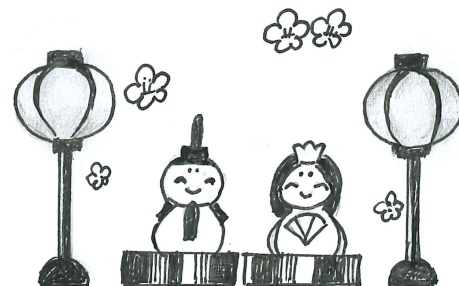
端午の節句は、旧暦で現在の6月の行事。雨期で季節の変わり目。病気や、災いが増えるので、大昔の中国では菰草であるしょうぶを使って邪気払いをしていました。

一方、日本でも古くから厄除けのお清めに、しょうぶ湯を使っていました。しょうぶが「勝負」につながることから、こどもの成長を願う日と結びついたので。

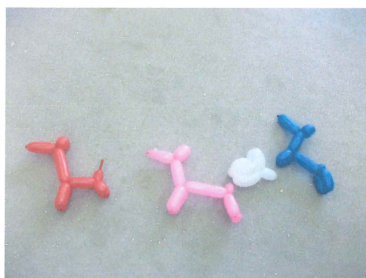


「のびのびひろば」のようす

2月27日 おひなさま作り



3月6日 おたのしみゲーム



3月13日 探検しました



柏もち・ちまき



端午の節句に食べられるようになった柏もちやちまき。柏の木の葉は新芽が出てから古い葉が落ちるといふ珍しい特性から「家系が絶えない」といういわれがあります。

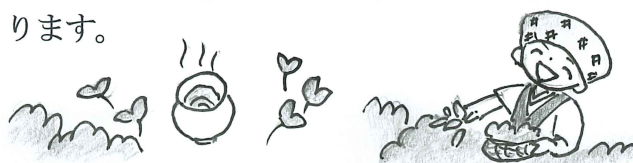
一方ちまきは、中国の詩人、屈原を供養するためのもの。屈原の命日の旧暦5月5日にちまきを食べる習慣が残り、日本に伝わりました。

「食の歳時記」

八十八夜 (お茶)

八十八夜は、立春から数えて八十八日目にあたる日。5月2日前後で、今年は5月1日です。暦の上では、この日から夏になります。

この日に摘んだお茶は一番茶で、飲むと無病息災に過ごせるという言い伝えもあります。



〈児童センターからのお知らせとお願い〉

- 1 児童センター周辺の交通量増大につき、交通安全には十分気をつけてください。
- 2 未就学児のお子さんの来館には、必ず保護者同伴でお願いします。
- 3 館内（グラウンドを含む）での飲食は、禁止しています。（乳児用のミルク、お茶、水等は除く）